

	課題分析	授業改善策	改善状況
国語	<p><b>【漢字を書く力】</b></p> <p>○漢字を書く問題において、正答率は、全国平均を上回る結果となった。しかし、実際の生活の中で漢字を正しく使えている児童は多くない。送りがな、画数が多い漢字に課題があるため、繰り返し実施し、確かなものにしていく必要がある。</p> <p><b>【読解・表現】</b></p> <p>○登場人物の相互関係や心情などについて描写を基に捉えることの正答率は全国平均よりも高かった。しかし、人物像を具体的に想像すること、表現の効果を考えたりすることは正答率が低く、課題である。</p> <p>○情報と情報の関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し、使うことを問う問題や、目的や意図に応じて事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題は、全国平均よりも正答率が低かった。</p> <p><b>【話すこと聞くこと】</b></p> <p>○目的や意図に応じて集めた材料を分類したり、関係付けたりして、伝え合う内容を検討する内容の問題は正答率が全国平均よりも高かった。しかし、資料を活用して自分の考えが伝わるように表現を工夫する問題は正答率が低かった。</p>	<p>○「朝学習」では、単純な書き取り練習だけでなく、漢字を読んだり使ったりする様々な活動を展開して、能力の定着を図る。</p> <p>○漢字小テストだけでなく、ドリルパークも活用し、確実に身に付けられるようにしていく。</p> <p>○学習の仕方を教員が紹介したり、児童の学習の仕方からよいところを褒めたり紹介したりする。また、努力すべきところをアドバイスして、児童自身が練習の仕方を工夫していけるようにする。</p> <p>○学年に合う本を紹介し、読書活動で文章に触れる機会を増やす。「読書タイム」や「読書月間」を有効的に活用するようにしていく。</p> <p>○接続語や言葉の意味など、文章を読む上での基礎を培っていく。</p> <p>○発表活動を通して、重要なところを考えながらまとめることを意識させていく。また、自分の考えや理由、結論などの様々な表現方法を知ることができるようにする。</p> <p>○グループやペアなどで自分の考えを交流したり、考えをまとめたりする時間を設け、根拠を見いだせるようにする。</p> <p>○自分の考えを表現する場面では、話型やスモールステップによる展開を導入して、考えと理由をセットで述べる、事例を挙げて書くといった習慣を定着させていく。</p> <p>○話し合い活動の中で資料をこちらから提示したり、資料を活用することを条件付けたりするなどしていき、資料から自分の考えを表現する機会を設ける。</p>	
社会	<p><b>【資料の読み取り】</b></p> <p>○グラフや表などの資料を読む力に個人差が大きい。</p>	<p>○実態や目的に応じて使用する資料を教師が絞り込むようにする。ICTを活用しながら情報を共有化する。</p> <p>○考える視点を明確化して、提示の仕方を工夫する。</p>	

	<p><b>【資料の活用】</b> ○問題を解決するために必要な情報を選び、比較したり関係付けたりしながら、考察することに課題がある。</p> <p><b>【振り返り】</b> ○「振り返り」の場面で、何を書いてよいか分からない児童がいる。</p>	<p>○児童が主体的に解決の活動を進めていけるようにする。予想を立てたりその検証にどのような情報が必要なのか見通しをもったりする過程を丁寧に扱うようにする。</p> <p>○考察の場面では、事実と資料から読みとったことを分けて書くように伝える。キーワードや話型を示すなどの支援をする。</p>	
算数	<p><b>【全体概況】</b> ○全体としては、全国平均よりは概ね上回っている。東京都の平均との比較では、課題のある項目が多い。</p> <p><b>【データの活用（領域）】</b> ○それぞれの資料の読み取りについての正答率は、東京都の平均を上回っている。しかし、目的に合わせて分類整理をすることについては課題が見られる。</p> <p><b>【図形（領域）】</b> ○直方体の見取り図についての理解や球と立方体の関係について考える問題の正答率が低い。</p> <p><b>【変化と関係（領域）】</b> ○速さについての問題において、時間を基に判断し、その理由を説明する問題の正答率が全国平均を下回った。</p> <p><b>【考えたことを表現する力】</b> 解答を分析すると、式や答えは記述できているが、その式を導くために使った考え方や正しい数値が記述できていなかったり、説明の順序がちがっていたりする姿が浮かんできた。「根拠」と関連付けて説明する力が不十分であることが見えてくる。</p>	<p>○課題解決の目的をしっかりと捉えた上で、特に複合的なグラフや表の意味を理解したり、考察したりする活動を大切にする。データを読み取ったり、考察したりしていくことによって、課題解決に近づいたことを実感できるように意識して指導していく。</p> <p>○立体図形について理解する際に、具体操作を通して図形の性質や関係を捉えられるように指導する。</p> <p>○数量関係について、具体的な場面に則して数直線図と式を関連づけながらその意味を正しく理解できるようにする。また、理解したことを図や式を用いて説明し合ったり、活用したりする活動を適時行う。</p> <p>○自分の考えを出し合い、話し合う活動を重視した授業を行う。すべての児童が納得できる話し合いを目指し、わからないことを出し合えるような学習集団の雰囲気大切に、授業を行う。</p>	
理科	<p><b>【問題解決の力】</b> ○「問題を見いだす力」は、児童によって差が大きい。 問題を見いだす力が低い児童は、主体的に思考</p>	<p>○「問題を見いだす力の育成」は第3学年の重点項目であるが、全学年を通して問題解決の過程を丁寧に扱い、「見いだした問題」に対して主体的</p>	

	<p>していくことも難しい。</p> <p><b>【思考・表現・判断】</b></p> <p>○予想する場面では、理由をもって予想することが難しい児童が少なくない。</p> <p>○考察の場面では、得られた結果から問題の解決へと思考できる児童と、結果を結論や生活と結びつけることが難しい児童がいる。</p> <p><b>【技能】</b></p> <p>○器具の扱いを積極的に行いたい児童が多い一方、器具や操作を同じ児童が行ってしまい、見ていだけになってしまう児童の姿もみられた。</p>	<p>に思考を深めていく力を伸ばしていく。</p> <p>特に単元の導入の部分で、全体が興味を示せる・問題を見いだせるものを提示し、問題を見いだす力の育成を図る。</p> <p>○予想の場面で身の回りの現象やこれまでの経験を根拠に説明したり、考察の場面で生活の場面にあてはめて説明したりしながら問題を解決していく。</p> <p>○学習の終わりに、学んだことを使って自然事象や生活で使われていることを説明する場面を設定する。児童がより身近な問題として感じられるよう、ICTの活用をするなど提示の工夫を工夫する。</p> <p>○器具の扱いは、操作を通して徐々に身につくものである。できる限り全員が自分の手で実験を操作できるよう器具の数を準備し、時間に余裕をもち、実物を扱う場面を繰り返し設定する。</p>	
生活	<p><b>【思考・表現】</b></p> <p>○活動や体験に楽しく参加するが、それらを通して、自分の気づきを深めることが苦手である。</p>	<p>○活動や体験から見付けたことを小グループや全体の場で伝え合い、児童が気づきを深める場面を丁寧に展開する。</p> <p>○児童の気づきを見取り、価値付ける声かけをしていく。</p> <p>○見付けたことや考えたことを、言葉や絵、動作、写真や動画など、様々な方法で表現できるよう環境を整える。ICTの活用も取り入れる。</p>	
音楽	<p><b>【思考・表現】</b></p> <p>○曲想にふさわしい表現を工夫し、自分の思いや意図をもち、協働して音楽をつくりあげようとする意欲が高められていない。</p>	<p>○少人数で演奏に取り組むことで、互いにアドバイスし合う、教え合う、練習を重ねる場面を増やし、協働して音楽をつくりあげる楽しさ、喜びを感じ取らせる。</p> <p>○音楽を形づくっている要素やそれらの働きに着目し、楽曲に対する理解を深める。</p>	
図画工作	<p><b>【学びに向かう力】</b></p> <p>○材料や用具のもつ造形的な魅力に気が付き、どのような表現ができるか試す行為的な活動は、意欲的に取り組むことができる。しかし、活動内容や出来上がった作品に価値を見出せず、自</p>	<p>○教師が意図的に児童へ肯定的な声かけをし、一つ一つの行為に価値付けをしていく。</p> <p>○自分の活動や作品に愛着をもてるよう、児童の実態や発達段階に応じた題材研究をするととも</p>	

	<p>身の活動に自信がない児童が多い。</p> <p><b>【思考・判断・表現】</b></p> <p>○自分なりに表したいイメージをもつことはできるが、表し方を考えたり工夫して表したり探求して活動する児童は少ない。</p> <p>○表現方法を探求したり、作品を鑑賞したりすることから、さまざまな見方や考え方、感じ方があるということを理解していない児童の姿も見られる。</p>	<p>に、児童同士の関わり合いにも目を向けた授業の流れを工夫する。</p> <p>○導入時に複数の参考作品や資料を提示したり、様々な表現方法を教師が児童同士に共有したりすることで、児童が自分なりの考えをもてるようにする。</p> <p>○児童が互いの活動を鑑賞できるように、教室内の環境整備をし、児童の作品を展示する。また鑑賞の活動を題材の中で位置付け、教師がファシリテーターとなり、児童の活動を価値付ける発問・声かけを工夫する。</p>	
家庭	<p><b>【技能】</b></p> <p>○調理や裁縫の経験の差が大きい。</p> <p><b>【友達への活動に対する関心】</b></p> <p>○調理や裁縫などの作業がうまくできない友達に対して進んで協力し、実習を行っている。</p> <p><b>【生活に生かす】</b></p> <p>○学んだことを生活に生かし、主体的に学び進めていく力に課題がある。</p>	<p>○映像資料や実物を見せながら指導を行う。</p> <p>○事前に経験を問うアンケートを実施し、協力しながら活動できるようにグルーピングをする。</p> <p>○ミシン実習は保護者からボランティアを募り、手を借りながら行えるようにする。</p> <p>○教え合いや助け合いをさせることで、調理や裁縫が得意な児童に負担が集中してしまうことがある。特に調理実習については役割を明確に示し、準備や片付け行えるようにする。振り返りの際、全員で作業できたかを振り返るようにする。</p> <p>○学習の終末に「自分の生活にどう生かしていけそうか？」を考えさせたり書かせたりする時間を設ける。</p> <p>○学習後に家庭学習で実践する課題を出す。家庭にも協力を求めることで、家庭で実践し、新たな課題を見いだせるようにする。さらに、技能の定着を図る。</p>	
体育	<p><b>【技能の向上】</b></p> <p>○個に対応する時間の確保が難しいため個に応じた技能・体力向上を図る指導が不十分である。</p>	<p>○グループでの学習を意図的に増やしていき、その中で、個に応じた指導を増やしていく。</p> <p>○ICTを活用して、自分の実技を振り返る場を設ける。</p>	

	<p>○用具の活用が不十分であった。</p> <p><b>【関わる力】</b> ○話し合う時間の確保や話し合い活動が難しいため、児童同士の「関わり」を高めることができていない。</p> <p><b>【体力の向上】</b> ○感染症の拡大による自粛生活の影響で、身体を動かして遊ぶ機会が減ったことなどの影響により、体力テストの記録の低下がみられる。また、自主的に外遊びや運動に取り組む児童が減っている。</p>	<p>○用具の場を教員で周知して、必要なものを使いやすくすることで、効果的に指導ができる。</p> <p>○グループでの学習を意図的に増やしていき、その中で話し合う機会を増やしていく。</p> <p>○技能が高い児童、話し合いを進めることができる児童が均等に分かれるようなグルーピングをする。</p> <p>○タブレットを活用し、友達と見合うとともに、知識を増やし関わりを増やしていく。</p> <p>○体力向上に向けて、5分間走や5分間縄跳びなど、体力を高める運動を継続的に行う。20分休みは校庭遊びを推奨し、少しでも継続的に体を動かしていく。</p>	
<p>外国語</p>	<p><b>【個人差】</b> ○学校外で外国語を習っている児童も多く、話す力、書く力などにおける個人差が大きい。</p> <p><b>【関わる力】</b> ○学んだことを使う「アクティビティ」の場面では、いつも決まった子とペアを作る傾向があり、コミュニケーションの力が伸びにくい。</p> <p><b>【読むこと】</b> ○英語の言葉を読むことに、苦手意識をもつ児童が多い。</p> <p><b>【書くこと】</b> ○英語で文字を「書くこと」に、苦手意識をもつ児童が多い。</p>	<p>○話したり書いたりする力の育成の前に、外国語は「楽しい」という興味や関心を高めていく。歌やリズム、絵本やカードなど、簡単な教材を選び、また、ALTと協働しながら個別に声をかけ、児童が「わかる」瞬間を増やしていく。</p> <p>○ルールを工夫し、多くの相手と関わる必要がある状況をつくる。</p> <p>○文字を読むことへの抵抗感が減るように、フォニックスや動画など、音と文字を一致できる活動を取り入れる。文章を見ながら文を声に出して読む活動を取り入れる。</p> <p>○「書くこと」だけの時間が長くないよう、「聞く→話す→書く→聞く→読む→書く」など様々な活動を組み合わせた展開を考える。</p> <p>○日頃から外国の文字に親しめるよう、外国語の掲示スペースを学年の廊下や学級内に作る。</p>	

